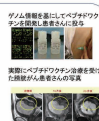


ニュースレター

東日本がんプロ 合同シンポジウムについて

今回講演の機会を与えていただいた統括コーディネーターの高橋 和久教授、がんプロフェッショナル養成推進基盤ニュースレター編集長 樋野 興夫 教授に厚く御礼申し上げます。





9/20(土)・21(日)

平成26年度連携7大学FD研修会

総括

順天堂大学

医学部 腫瘍内科学研究室 教授 加藤 俊介

今回の連携7大学のFD合宿は「がん医療維新を達成するための自己点検と実行プランの策定」をテーマとして行われました。維新の意味「維(こ)れ新(あらた)なり」を意識しながら、理想とする最終ゴールを見据えた今後のアクションプランが活発なグループワークを通じて得られました。これからもリーダー、フォロアー一体となったがんプロ「維新」を進めていけたらと思います。ご参加いただいた全ての方々に御礼を申し上げます。



岩手医科大学 医学部 内科学講座(血液・腫瘍内科分野) 准教授 伊藤 薫樹

3年目のFDワークショップが、「維新」を目指した今後のアウトカムの重要性についての講演を皮切りに、順天堂大学で2日間にわたり開催され、プランの課題と解決策について熱心な議論が行われました。「維新」を達成するための具体的な課題と真の目標を共有できたことが最大の収穫であったと思います。私はICTと地域交流・均てん化を検討するグループに参加しましたが、今後は、現行の地域事業から見える現状や課題を7大学で共有し、均てん化の最適な評価法の開発や地域のニーズに対応できる柔軟な教育・啓発を図っていくことが必要ではないかと感じました。軌道に乗ったそれぞれの事業を「維新プラン」でしか成し得ないアウトカムにつなげるために、積極的にアクションを起こしていく「維新の志士」となれるよう頑張っていきたいと思います！



島根大学

医学部 放射線腫瘍学 教授 猪俣 泰典

早いもので「連携7大学FD研修会」が昨年の秋に出雲市で開催されたことがついこの間のことに思われます。今年は東京での開催で、がん診療レベルの地域間格差の解消や医療教育の充実、国際化の推進等、日本のがん医療が抱えている問題点の解決策について、3グループに分かれての討議は心地よい疲労感を覚えて終わりました。「がん医療維新の達成」という壮大な目標は一朝一夕に達成されるものではありません。しかし継続は力なりで、われわれが取り組んでいる地道な活動も少しずつではありますが実を結びつつある手応えを感じています。閉会の辞で樋野教授が奇しくも申された、こうした活動と成果の社会への認知度を高めるためにはすぐれた広報が必須であること、またこの部分がかもっとも遅れていることを痛感しました。今回のFD研修会のためにご尽力頂きました順天堂大学をはじめとする皆様方に感謝します。

鳥取大学 医学部附属病院がんセンター センター長 教授 辻谷 俊一

今回初めてFD研修会に参加して、各大学の状況を知り、がんプロフェッショナル養成のPDCAについて考えることができました。冒頭の桜井なおみさんの講演で、リーダーとフォロワーの形成からムーブメントを起こす重要性を教わりました。国民病である「がん」と向き合うには、医療者、患者、家族のみでなく健康な人々の力まで集めることが必要でしょう。樋野興夫先生は、医療維新が起きるには30年後を見越して語る人間が必要だ、と総括されました。そのような人が現れるには、それが生まれる土壌が必要で、がんプロはその土壌を築くものだと思います。有益な教育、研修、交流、組織作りを積み重ね、「がん」に対するムーブメントへとつなげたいと考えます。主催の順天堂大学の皆様の温かいホスピタリティに感謝します。ありがとうございました。

明治薬科大学 薬効学 教授 庄司 優

順天堂大学センチュリータワーで行われた第2期がんプロFD合宿は、今回で早くも3回目となった。代表世話人の加藤教授より全体説明を受け、プロジェクトの目標である「がん医療維新」を達成するための検討に入った。まず、桜井先生の講演では維新の原点と患者サイド医療評価の必要性および評価法の重要性について、大津先生からは新設の先導的がん医療開発研究センターの先進性と活躍について認識を新たにさせられた。島根大学の沖本先生は順天堂に短期研修中であり、その貴重なご経験が印象深かった。その後Aグループで、ICT連携、地域交流・均てん化についてこれまでの活動の問題点を挙げ、その解決への実行プランの策定を行った。身につまされる切実な熱い意見がかわされた。これからのがんプロの活動にたいへん有意義な内容であった。

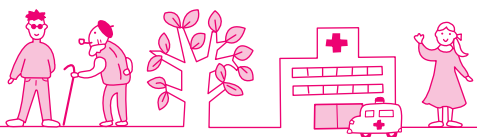
立教大学 理学部 物理学科 教授 栗田 和好

私の参加したCグループでは研究基盤整備と国際化の推進をテーマに討論を行いました。論文数等では評価出来ない研究の質の確保には共同研究を成功に導くプロセスの重要性が挙げられ、我々が作り上げているのはそのプロセスを経験する上で獲得できる知恵であるという結論に深く納得しました。全体を通して感じたことは皆さんの、命を救うという使命感に裏打ちされた誠実さと門外漢の物理屋を暖かく迎えてくださる懐の深さです。異分野間の接点から生まれる新たな発想の予感はそのような雰囲気から生まれるのだらうと思います。共同研究で活躍する若手の方にも接して、がんプロが可能にした“維新のさきがけ”も感じることができました。こうして集うことで可能になったことをさらに発展させていくことがプロジェクトの核心であると実感出来た有益な合宿でした。

東京理科大学 薬学部 薬学科 助教 堀口 道子

この度、連携7大学FD研修会に参加させていただき、がん医療維新におけるチームワークの重要性を再認識いたしました。研修会ではがん医療維新を実現するために、これまでの取り組みに対する総括と今後の目標設定を行いました。これまでの取り組みについて厳しい意見も多く活動を見つめ直す良い機会となりました。以前のがんプロ合宿で提案され当方も参加している臨床研究についても、先導的がん医療開発研究センターの先生方をはじめ多くの先生方から有益なご助言を頂戴いたしました。がん治療における臨床的な問題を解決するにあたり、それを担う人材の育成および臨床研究の推進のためには専門性の異なる方からの厳しい意見が重要です。今後がん医療維新に向けて強力なチーム体制を構築しがん医療の充実に繋がる活動を発展させていきたいと思っています。





Leading center for the development and research of cancer medicine

情報 コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

● 連携大学ICT講義（岩手医科大学）

テーマ「がん患者の就労－支える我々ができる事 現実と理想－」

ゲストスピーカー：独立行政法人国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部 高橋 都 氏

岩手県保健福祉部 橋場 友司 氏

NPO法人いわてパノラマ福祉館 大坪 幸弘 氏

2014年7月25日（金）18：30～20：00 ICT接続により連携7大学各校で開講

● 連携大学ICT特別講演会（明治薬科大学）

テーマ「中性子捕捉療法の原理とがん治療への展開」

演者：明治薬科大学寄付講座「がん先端医療学：アルファ粒子線・免疫治療学教室」 柳衛 宏宣 教授

2014年9月17日（水）18：30～19：30

● 連携7大学FD研修会（合宿）

テーマ「がん医療維新を達成するための自己点検と実行プランの策定」

2014年9月20日（土）11：30～21日（日）11：30 順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス

● 連携大学ICT講義（東京理科大学）

テーマ「がん医療コーディネーター（CRC/共同研究コーディネーター）」

ゲストスピーカー：東京理科大学薬学部生命創薬科学科 増保 安彦 嘱託教授

2014年10月9日（木）18：30～20：00 ICT接続により連携7大学各校で開講

今後のスケジュール

詳細はHPに随時掲載します

● 市民公開シンポジウム（立教大学）

テーマ「切らずに治す放射線がん治療」

2014年10月18日（土）13：00～16：00 立教大学 マキムホール 2階 M202

● 外部評価委員会

2014年11月22日（土）14：00～17：00 順天堂大学 センチュリータワー 北4階 405教室

● 肺がんシンポジウム（順天堂大学、岩手医科大学、鳥根大学、鳥取大学）

テーマ「地域から首都圏、そしてアジアまで俯瞰する肺がん研究」

2014年11月27日（木）14：30～17：00 順天堂大学 10号館 1階 105教室

編集後記

秋分の日、「新渡戸・南原賞委員会主催シンポジウム：新渡戸・南原と現代の教養」（学士会館に於いて）が開催された。筆者は、「南原繁のリーダーシップに学ぶ～時代を動かすリーダーの胆力～」を講演する機会が与えられた。

翌日、「新渡戸基金維持会定例委員会」（国際文化会館に於いて）に出席した。「新渡戸稲造の精神の継承」は、「現代の国際性・教養・教育」に於いても、大いに示唆に富むモデル事業であることを痛感した。まさに「せねばならぬ勤めならば、気軽く潔くすべし。何事も心地良く手をくだせば、よくはかどりてかつ身の疲労少なし」（『人生雑感』新渡戸稲造 著）の再確認の時でもあった。

「誰にも出来るが、何処にいても出来ない」研究から、「何処にいても出来るが、誰にも出来ない」研究が、本来の「勇ましき高尚」な独創性であろう。日本国では1番でもアメリカでは101番目では、日本国の「オリジナルな気概ある医療維新」は生まれない。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>